

万引き家族 Shoplifters

観賞日 2020・7・27

【概要】

制作 2018年 日 上映時間 120分
原案 是枝裕和
脚本 是枝裕和
監督 是枝裕和
音楽 細野晴臣
撮影 近藤龍人
出演 リリー・フランキー（柴田治）、安藤サクラ（柴田信代）
松岡茉優（柴田亜紀）、城桧吏（柴田祥太）
佐々木みゆ（ゆり）、樹木希林（柴田初枝）



【あらすじ】

冬、東京の下町。ひっそりと身を寄せて暮らす奇妙な家族。柴田家は社会の最底辺に属する。5人の家族が1人増えて6人に。収入は祖母初枝の年金6万円を中心に、主の治の日雇い賃金と主婦信代のパート収入。それだけでは暮らしが成り立たず、不足分は万引きで賄う万引き家族。万引きを主として受け持つのは治と息子の祥太。祥太は学校にも行けずに家にいる。家族には他に信代の妹、風俗店で働く亜紀がいる。しかし、6人は貧しいながらも平穏な生活を送っていた。そんな折、治が作業中に負傷、信代もリストラされる。ますます困窮化した一家は連れて来た少女リンにも万引きの手伝いをさせる。

夏、一家は海水浴に出かけ束の間の一家団欒を過ごす。突然の初枝の死亡。これを機に隠していた秘密が一気に露呈する。祥太の万引き失敗による身柄拘束。危機感を抱いた一家は逃亡を企てるが失敗。警察の追求により、それぞれの素性が明らかにされる。罪をかぶった信代が祥太に語ったことは……。最後に祥太が治に語ったことは……。

家族のあり方の模索をライフワークとする是枝監督、入魂の話題作。

【解説】

■ポイント

●樹木希林（1943年～2018年）

- ・東京生まれ。1961年文学座の一期生として入る。1964年「七人の孫」でテレビデビュー。その後、「時間ですよ」（1970年）、「寺内貫太郎一家」（1974年）でコミカルな老け役として人気を確立した。
- ・その後、「ピップエレキバン」「フジカラー」のCMで話題となる。
- ・2000年以降は映画に軸足を移し「東京タワー～オカンとボクと、時々オトン～」(2007年)で日本アカデミー賞最優秀主演女優賞受賞。日本アカデミー賞最優秀賞では結局、主演女優2回、助演女優3回を受賞。是枝映画の常連で不可欠の存在。



●受賞

- ・第42回日本アカデミー賞
13部門でノミネートされ8部門で受賞
作品賞、監督賞、脚本賞、主演女優賞（安藤サクラ）、助演女優賞（樹木希林）
音楽賞（細野晴臣）、撮影賞（近藤龍人）、照明賞（藤井勇）
- ・第71回カンヌ国際映画賞：パルムドール受賞

■見どころ

●格差社会に対する警鐘

最も成功した社会主義といわれた日本の経済復興がいつの間にか格差社会に。

●家族とは

血縁関係のない疑似家族を通して家族の存在を問う。